

藤田医科大学と関連の施設の共同研究グループは、血液疾患患者さんにおける新型コロナワクチン接種後の抗体価の推移に関する臨床研究を実施しました。その結果の論文が1月に受理され、その内容を1月20日、藤田医科大学からプレスリリースしましたのでお知らせします。

以下は今回の研究の中で特に重要な点です。

- (1) 血液疾患患者さんの一部において、獲得抗体価が極めて低いこと
  - (2) 特に悪性リンパ腫治療中の患者さんにおいて、抗体の獲得が困難であること
  - (3) 抗体の獲得には、接種時のBリンパ球の数が重要であること
  - (4) ワクチン接種後でも油断せず、引きつづき感染予防が重要であること
- 患者さんにとってたいせつだと思いますので、広く情報できるようにと、大学からプレスリリースしました。

.....以下、新聞記事のひとつです。

日本経済新聞より『リンパ系患者、コロナワクチンで抗体増えず 藤田医科大』

藤田医科大学の岡本晃直講師や富田章裕主任教授らは20日、血液のがんである悪性リンパ腫の患者では、新型コロナウイルスのワクチンを2回打っても抗体がほとんど増えないとする研究結果を発表した。接種後も感染や重症化のリスクが高いため、家族など周囲の人の感染対策の徹底などが求められるという。

悪性リンパ腫は抗体を作る細胞「B細胞」などが、がん化する病気だ。研究チームは悪性リンパ腫を含むリンパ系腫瘍や骨髄系腫瘍など「血液疾患」の患者約260人を対象に、ワクチンを2回接種した後に採血し、新型コロナウイルスに作用する抗体の量を健常者と比べた。

健常者と同程度まで抗体が増えた患者は、リンパ系腫瘍では45%、骨髄系腫瘍では67%だった。特に悪性リンパ腫の患者では効果がなく、治療中か投薬をやめて半年以内の患者では2%にとどまった。悪性リンパ腫の投薬治療によってがん化したB細胞などを壊してしまい、抗体が作られにくくなるためとみている。

血液疾患の患者の重症化リスクは高いとされている。富田主任教授は「患者には濃厚接触者となった段階で投薬を開始するなど、重症化を防ぐための踏み込んだ対策も検討すべきだ」と話す。

』